



# 見沼のほとり

第 8 号  
令和6年11月1日

学校教育目標 主体的に生きる人間の育成 《意欲・健康・豊かな心》

## あと少し

校長 金子 慎一郎

日々秋らしさを感じることができるようになりました。今年は10月になっても25℃を超える日が続き、観測史上初という記録が更新されなかなか秋を感じることができませんでした。

秋と言えば「芸術の秋」、「食欲の秋」などいろいろな表現があります。学校行事では新人体育大会、市駅伝大会、合唱コンクールが開催され本校の生徒も大いに活躍をしてくれました。新人体育大会では、私もいくつかの大会会場を回り、試合を観戦しながら生徒の様子を見させていただきました。どの種目においても生徒は一生懸命に頑張っていました。そのような中で、印象に残った試合がいくつかあります。



まずはサッカー部の試合です。サッカー部は泰平中学校との合同チームで、大谷場中学校と対戦しました。相手は総勢50人を超える大所帯で、対する土呂中学校と泰平中学校の合同チームは合わせて20人ほどのためはじめから圧倒されてしまいそうでした。しかし、試合が始まり両チームとも得点が入らず0対0のまま延長戦に突入することになったのです。相手はメンバーを次から次へと変え、疲労がたまった合同チームのスキを突いて勝ち越され残念ながら負けてしまいました。少ない合同での練習時間や雑草だらけのグラウンドなど不利な条件のなかでも一生懸命練習してきた本校のサッカー部を知っている私は敗れたとはいえ大いに感動させられました。

ソフトボール部の試合では県大会を目前にして勝負の厳しさを体験しました。ベスト4決めで負けてしまったもの、県大会出場をかけての敗者復活戦で1試合を勝ち上がり、もう少しで県大会出場という試合を観戦しました。両者譲らずチャンスをお互いに作りながら点の取り合いになりましたが、最後は反撃も及ばず時間切れで敗戦してしまいました。他にも卓球部では男女とも予選リーグを勝ち上がり、決勝トーナメントであと一つ勝つと県大会出場という所で残念な結果となり、「あと少し」という壁を実感することになりました。

22日には市駅伝大会が開催され、1年生から3年生までのいろいろな競技種目の選手で編成した駅伝チームは、日を追うごとに仲間意識が高まり短い期間の中で素晴らしいチームワークを築いていきました。駅伝大会当日は快晴の空の下、1秒でも速く次走者へ襷を繋ごうと懸命に走る姿が印象的でした。また、サポートに回った生徒の大きな声援をおくる姿も目に焼き付いています。スタート前の緊張感や市内63校の選手が一斉にスタートする光景はさいたま市内の大きさを感じる瞬間でした。男女ともに自己ベストを出した生徒が多く、日頃の練習の成果が発揮できてよかったと思います。

25日には合唱コンクールが開催され、11クラスの歌声を聞くことができました。1年生は声変りをする前の難しい時期だと言われますが、練習の成果を発揮して1年生らしい歌声を響かせてくれました。2年生は一気に声質が変わり、ハーモニーが生まれ合唱の質が上がっているなど感じました。そして3年生はパートごとのハーモニーが一段と良くなり、メロディや歌詞を意識した歌声を響かせてくれました。講評をいただいた飯島先生も、生徒皆さんの素直さが出た歌声でレベルの高い歌声を聴かせてもらって幸せでしたとおっしゃっていました。この合唱コンクールで3年生は大きな学校行事が終わります。11月からはいよいよ自分の進路に向けて頑張っていくこととなります。面談練習では、自分が土呂中学校でどんなことに頑張ってきたのかを語れるようにしておきましょう。